



和漢抄
一

伊地知文庫
文庫20
288
1



八雲抄序

伊地知氏書冊

宋記宗庫

夫和歌之起自八雲出雲之古風唐千文或
 聖武之皇朝言泉海意詞林道難之降已
 未貴賤既之道俗推乃之然而不學之宗書冊
 名之之志恐錄三十一字之句無窺玉函爭知
 辨於之勢不視上邦強錄英雄之詞取以依代
 記之付也之髓髓歸抄一篇先達口傳有人教
 誠隆可顧問依部類不廣世之漏誠多第一正

義才二作法才三按紫才令言終才力之亦才
 六用竟誰非六義之披錦且為一才之鑒鏡也
 錄為六卷名曰八雲抄常置縮席側須備廢忘
 而已

八雲抄卷第一

正義類

六義

及款 普通非一字
或稱短考

混本

俳諧

省冠

異本

序代

諸款

廻文

折句

物名

連款

短考 或考
考考

旋頭

五心水考

省冠折句

贈答

八病

八雲抄

七病
身命

七病
身命

身命

六義書

一風とらふらう魚の世物とあつたよそへへあつた
ゆきとらふらう魚の世物とあつたよそへへあつた

難波はよそへへあつたよそへへあつた

今をよそへへあつたよそへへあつた

二賊をけうへんや物よそへへあつたよそへへあつた
波よそへへあつたよそへへあつた
よそへへあつたよそへへあつた

二賊をけうへんや物よそへへあつたよそへへあつた

さくたつたよそへへあつたよそへへあつた

さくたつたよそへへあつたよそへへあつた



古今をよみよきものなるはあはれしものなり是よりあは
れをよむことあり

三はるるはく人の世物はあはれしものなるはあはれし
ぬるものなるはあはれしものなり

あはれしものなるはあはれしものなり
あはれしものなるはあはれしものなり

古今をよみよきものなるはあはれしものなり是よりあは
れをよむことあり

あはれしものなるはあはれしものなり
あはれしものなるはあはれしものなり

今興るものなるはあはれしものなり

あはれしものなるはあはれしものなり
あはれしものなるはあはれしものなり

古今をよみよきものなるはあはれしものなり是よりあは
れをよむことあり

あはれしものなるはあはれしものなり
あはれしものなるはあはれしものなり

あはれしものなるはあはれしものなり
あはれしものなるはあはれしものなり

あはれしものなるはあはれしものなり

あはれしものなるはあはれしものなり
あはれしものなるはあはれしものなり

古今をよみよきものなるはあはれしものなり是よりあは
れをよむことあり

花ららるるも海かゝるま

しらねをうらむる海にしらね

六頌をうらむる海

あつらひのうらむる海にうらむる海

うらむる海にうらむる海にうらむる

先づうらむる海にうらむる海にうらむる

うらむる海にうらむる海

うらむる海にうらむる海にうらむる

うらむる海にうらむる海にうらむる

うらむる海にうらむる海

今來費らくは海にうらむる海にうらむる

あつらひのうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海にうらむる海にうらむる海にうらむる

海へ出ていふこともなく船のりもなれども
 のりもなれども船のりもなれども
 船のりもなれども船のりもなれども
 船のりもなれども船のりもなれども
 船のりもなれども船のりもなれども
 船のりもなれども船のりもなれども
 船のりもなれども船のりもなれども
 船のりもなれども船のりもなれども
 船のりもなれども船のりもなれども
 船のりもなれども船のりもなれども

布代

昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども

檢税使大侍卿登籠波山時北

昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども
 昔は甲州の布代もなれども

うまへしるる

己上二三を方禁乃中一六と成はしこし死也これ
身去きこことわくあり古今以後也了今おぼ
世皆指をくく唯多解勢及初指を去るは

らるやゆる

非言月とや

今物よりせし

思ひぬわい

と月一と道

おぼしとせし

あつとやの

昔物よりと

あつとわしと

さびく日毎よ

ありゆきと

さびゆのをゆく

あはらし

わかれとせし

あはらしゆれ

いさしまる

産乃おと

村しとゆふ

なごまき

うへは海しく

あつとせし

と集序もゆふの也古今序はこれ眼をけ不及もゆ
後指遣千載もこの序とる物あり新古今の序はそ
尾うさわひく洞流美を非也よさうと死物と
乃序状もさうとくくくくくくく洞からしと
くくぬ物やをめくく洞類もくくくくくくぬ
物やむく見者くくくくくくかくくくくく
捕日匠存まの序もくく洞はゆくまといりあり
て然る序もくくくくくくく可ゆい

短考

或梅ちあゆ流るゆま之後成古と扱ふ巨細あり
何れも洞只お給ち短考ありありありありあり

物やららるるのあり種もくくくくくくくく
み文字よそれと扱ひ七文字ぬぬぬぬぬぬぬ

よきつせしく此の如くは...
尾の如く申すは...
ふみまの如く然るれは...
うくくもく此の如く...
そくもく此の如く...
の如く...
夕月と云ふ所の如く...
短の如く

舒めたる...
短の如く

は...
とく...
し...
也...
あ...
そ...
短...
換...
一...
又...
嘗...

嘗の如くの中...
又...
嘗...

野方といふは後成古本風抄云誰か云後成心云云也
ひくう景徳院中時短方と抄出人皆誦也云云後成曰本
方とも同のりといひあせりともいひ梅也方局うくよよある
也といひ梅短方といひ是も難受之を細説云云後成云り
及款 孝世一字云云云云云云
是短方之字也誰不限一之或云云云云云云云云云云
二之或三之也然る事云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

梅方

一梅方

梅方抄云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
一相関 此は梅方抄之加云云云云云云云云云云云云云云云云

後抄抄云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
上下云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
思熟別方とわり抄可劫

一梅方

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

一問答

問答也防人方も大略同のり然る事云云云云云云云云
也同のり也答云云云云云云云云云云云云云云云云

一相歡

多和里人方死万十七云天平十八年八月越中掾大伴
池直附大抵波赴向京神云同年十一月是到书信仍没
的浦之妻源線飲樂是日也白雪白浪快地尺余以时也
漁父之船入海浮濶妻也家物云云信云此神哉彼云
式多言云云再云一一思一一一一一一

旋鈴寺

三十一字よ今一のどとくも也普通多も又の是らるる
也物又七又らるる一のあつ極の一一一七字の或又
字ももさくつらつわり又七一一上り又七一一下り
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

是ら中一の又又又又又又又又又又又又又又又又又又又又
かろやろつお秩ろつおのこあろつおをわらけい
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

是ら中一の又又又又又又又又又又又又又又又又又又又又
わいびいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひい
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

是の中より一七の字ありて
難かきものありしを
なれども一七の字ありて
て身もたつて一七の字ありて
思ふも一七の字ありて
人とて一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて

一七の字ありて
一七の字ありて

混むる

三十一の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて

是の中より一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて
一七の字ありて

廻文あり

一七の字あり

是らいふはよもおあし極よ一極い

しつゝいふはよもあしつゝいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふは

よもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

よもいふはよもいふはよもいふは

りんらんをらんを推せしむるは之を種知のあ
 し後後送千載集よ入るるなる物種のものなれし
 うるのうらむるやわらむは之を初はよき
 よるはとふは可見古今や或は日遊は之種
 一俳語 二俳語 三俳語 四滑稽
 又俳語 六謎字 七戯 八鄙談
 九種云 いろはのゆき未毎之

わら句

毎の上物りなと一文字はくもたふるあり

かゝ衣衣はくもたふははまゝわらし

とらふくもたふははまゝわらし

毎よらん種も一人そなり

是のさうりつとていふもあつては種もあつて

お白書冠

是の毎の上下よ文字を入るるなり

わらふもさうりつとていふもあつては種もあつて

さうりつとていふもあつては種もあつて

是のわらふもさうりつとていふもあつては種もあつて

わらふもさうりつとていふもあつては種もあつて

わらふもさうりつとていふもあつては種もあつて

わらふもさうりつとていふもあつては種もあつて

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

蓄冠

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

物名

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

あつたしをりたうくはらむるまふりしは

を流る水は流る神よまらるる

を流る水は流る神よまらるる

業平朝臣の女よ

神のまらるる

とつる水の業平の女よ

流るる神をひきく

力さるるると来る

大氣之位より出た

よの人の心よ

さかたの

やわりの

とつる

うしろ

うしろ

うしろ

うしろ

うしろ

うしろ

うしろ

うしろ

うしろ

とてらるるあよかへく名付らる後粉抄物よらねるひら
こらんたららるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ

法成の入道

せうのしるしあつらふていふらんかきさつせいの

おさうしるしあつらふていふらんかきさつせいの

上東の院

お

おさうしるしあつらふていふらんかきさつせいの

かきさつせいのしるしあつらふていふらんかきさつせいの
月一の同約するらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
とてらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
とてらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
とてらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
とてらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
とてらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
とてらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ

わらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ

ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ

とてらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ
ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ

ゆよのわらぬらるるさきさきゆへとてらるるさきさきゆへ

あしはらきつわりのさそひとてかたも

是よりひらのけもきこふるはなからりあはれさ
あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの
あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの
あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの
あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの
あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの
あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの
あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

異律

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

あそひのさそひもあそひのさそひもあそひの

之後さゆく様々無きもの難儀らるや

連ふ

昔らふ十款百款とけくらくらぬ一きくよ句
あくも下句あてもりひうきけきたひまあうと付を
ああり今の様よくらうり半年はらあり也賤地を
も中はられりれ万葉才八尺さくうと家持の付之
と家持のあさむせむあけくう一田を

家持曰

かるるのりひらむわらるる人

是は欽振源やと後或先下は付と又昔海は
も是はひらむ多らるるは付と昔のあはくもあはくも也或人
ひらむ多らるる今も多らるるのま

わしひらむ多らるる期は日

後よらるるやと様をいふはよき

又天曆

とらむ多らるる今も多らるる

後時内付 小武令也

後母あはく人あはくらん

是あはく上はらるるや北朝夕の而は身は後連之也
代はあはくも也古は是はあはくもあはくもあはくも
不及ははあはくも年とを多らるるあはくもあはくも
あはくもあはくも及末代を可ぬ知るや

つるうまをくまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

一情乃賊物をうりつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

し賊倉歎よるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

うまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

海に離よるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

一うまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

はれんをくまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

一あふうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

ゆきをくまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

うまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

一用ひわれ者ありては賊物よるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

よるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

くまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

せ風掃物よるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

てをあへるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

也ゆりつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

救者知多しうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

ゆきをくまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

ゆきをくまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

ゆきをくまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

ゆきをくまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうまのひもつるうま

或上下を略すと又下句の如く

八病 五擬式

一同心病 或考和藤藤病

是月より乃二句よある也句あるひめらるる

或考和道もるれすのくわきよるり

はまがらみ人を約とせしまたん 遍照

さうさうん物とらあしよさうさうん

おりのまよよ乃こさうさうん 躬恒

るさ二わりらむ二所のさうさうさうさう

今之撰集よ多く一後成古来風日八病中是ホて去

後成古来風日八病中是ホて去

二乱思病 或考和形連病

是を詞後而さへあるなり

わひひららめるれあのかよさうさう

あまやしきぬよさうさうさう

あまやしきぬよさうさうさう

あまやしきぬよさうさうさう

ゆら物や玉座下りあ人あ方切之

三欄蝶病 或考和年野病

是わらぬく来句殊也

わらわしとせとんてゆく事乃人あり

さかたりありいとゆるしもの

友乃日めあらしまふらひやく酔

いひりてくかお事く死

あまた下あな人むいづりあひよ下女は跡を

多きと下とさるる

空流鳴病

或号上尾病

是梅子影お影のまらく約石芳あり

人を好もふん乃好さるる力なきはく

をりやうりふとるぬくもの

くま乃冬乃うらむ花ゆきあきのこと

あれ又ささやあふれあ乃遠よわ一死おもひも

大荒橋病

或号和越路病

是これ切よあくとあよまなや用あり

冬これと梅お雪をさるる

いし道のささか花は行くむ

是又た道乃りあうくはひよ乃る物也

六若槻病

或号和越路病

是らあそし一奉上下三用也長撫式云一そ中不

給思縁也

七中飽病

或号和越路病

是も二十又六字ありあり

さもあつたむしりさあはまをさるる

らるるさあはまをさるる

さあはまをさるる

息もはらさあはまをさるる

是も二十又六字ありあり

八後梅病 或は麻痺病 或混む之強弱不測

是も風情後梅也後於日多とさあはまをさるる

と此句を思ひはらさあはまをさるる

官病 表撰式

一尾樹病

才一句始才二句始句也後於
まは病をすさるる

さあはまをさるる

さあはまをさるる

さあはまをさるる

さあはまをさるる

さあはまをさるる

能らよのさあはまをさるる

二風爛病 毎句才二字と才句五字同

さあはまをさるる

さあはまをさるる

さあはまをさるる

さあはまをさるる

一 治癒病 *Shikōryō*

Shikōryō

Shikōryō

Shikōryō

Shikōryō

是らばいふにわいりつ病しあつていふ病はた

今吾病らりあつてい入病中

一 治癒病 毎句同字交し他各々種本忌

Shikōryō

Shikōryō

床あしころり小病く世たりたり

是らばいふにわいりつ病しあつていふ病はた

七病 漢成式

一 治癒病

毎句同字交し他各々種本忌

Shikōryō

Shikōryō

Shikōryō

Shikōryō

是らばいふにわいりつ病しあつていふ病はた

二 胸尾病

毎句同字交し他各々種本忌

ちりちりをさく秋をさるる松虫の
 けりちりちりえせとさうんを思ふ
 せし山よも志さるの下葉をちりちり
 せらりちりちり秘よゆささちりちり
 かなめささるれと秋のそなわら

三時尾病

他句はな中秋月や 才三句はな中秋月

山風よささるる秋のひさしちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり
 まささちりちりちりちりちりちり

後村曰古人控部之観城多之

空獣面子病

五句の中は秋下月よもささるる秋下月

秋ささるるちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり
 梅花ささるるちりちりちりちりちり
 言ちりちりちりちりちりちりちり

是ら下又ふさよは同字也いささちりちり
 五遊風病 一句中のささるる終字も同く

まささちりちりちりちりちりちり
 遊人のちりちりちりちりちりちり
 人ちりちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり

句同用字あり

六教類病 二教同字也

是乃乃山く山く山く山く山く山く
あとのこきりし風よあつたれ
一ちつて八ま山く山く山く山く山く
和つとあひふ和とあひふ
さくさくあつたれ山く山く山く山く山く
類や下句末同字也 後教は病答わり世不
といり成よすあおわつた

七通身病 二教中も類二字のて陰同字も 新撰髓腦抄

わらこ夜つら山く山く山く山く山く山く

あまの山く山く山く山く山く山く山く

あまの山く山く山く山く山く山く山く

うらふ山く山く山く山く山く山く山く

あまの山く山く山く山く山く山く山く
又新撰髓腦抄曰く山く山く山く山く山く山く
あまの山く山く山く山く山く山く山く

あまの山く山く山く山く山く山く山く
あまの山く山く山く山く山く山く山く
あまの山く山く山く山く山く山く山く

あまの山く山く山く山く山く山く山く
あまの山く山く山く山く山く山く山く
あまの山く山く山く山く山く山く山く

已上二六新撰髓體禁也

以上式く禁也やい外古人禁事

一 意くさくおん心よわすさ今相日月と
うらめや 林風小終をほよ上くくく
わさくせ乃ほわまのそれわたり

娘字同あり号平彰病き

一 波河いりおろあるらむいおん

毎の上同なわろく二文字の

一 八のむんおんよ白く八重橋

とあるらるる陽流あ合ああ
あやんさうひみくさく

後者あ合よば病後女難く

一 ぬ七さう八わく也あ
限多う流あ合た勝初極らわめ
くろくさああ

己八病可家己下禁よる
禁之上古言の月心病許
あ合く外名代
さ不為難くあ
家己のさ二也
ぬれとくく

抑句のあつひぬるる不為病而後乾抄此病例を不
 比心多更よ今古不後とあり隔句同りのあつひ
 為病也 後乾曰凡方家ら下方の同りごと二句は縁
 而あつひ山阿さつとつひ山よる乾とありあつひ
 あり此病之中は陳女より古人よりあつひ此病を
 中乾とて唯病はあつひあるあつひ誠とあつひ如乾
 亦合字の細 難也

一 妻たるる人ぬ之能隨乾能因孝也 婦人例也 一 妻
 たるる不^{義忠} 凡方家ら下方の同りごと二句は縁
 而あつひ山阿さつとつひ山よる乾とありあつひ
 あり此病之中は陳女より古人よりあつひ此病を
 中乾とて唯病はあつひあるあつひ誠とあつひ如乾
 亦合字の細 難也

一 妻たるる人ぬ之能隨乾能因孝也 婦人例也 一 妻
 たるる不^{義忠} 凡方家ら下方の同りごと二句は縁
 而あつひ山阿さつとつひ山よる乾とありあつひ
 あり此病之中は陳女より古人よりあつひ此病を
 中乾とて唯病はあつひあるあつひ誠とあつひ如乾
 亦合字の細 難也

一 同心病不為難同りの二不^{義忠} 一 妻
 たるる不^{義忠} 凡方家ら下方の同りごと二句は縁
 而あつひ山阿さつとつひ山よる乾とありあつひ
 あり此病之中は陳女より古人よりあつひ此病を
 中乾とて唯病はあつひあるあつひ誠とあつひ如乾
 亦合字の細 難也

字多をとも或稱病然今古海河也半既病は天誣之合
中務詠之北強冠とくわ指適身病の康安母切が書
仰くは捕親之同字云々のつぐせんやわらひるおよよ木
出くは然る社堂寛和の合詠去乃くる道の志る合と
よし乃く之書く之本の下風を鶴膝病や想句海の
や但又六く隆北病むやあや又換之字北河津浪後
曰の合しよし同字やわらなと古の器らわらせもさる
字やわらひ器と不や

一統之勝之社社のりを詠とる又同字集之合二
あはま日象衣七夕是物や永承元年の合一あま日
山とありり村大二条開日云ひつくりやうく(美とて世
た右勝と之字原家曰其心氣北あは北の合も
科破機之統之原のち元よああう及乃新を原一
かりとるもあま上二あはあま上とく赤澤のよ
くもりあくとあは原早あま上二年の合あま上の
合よ統之原早是もあうくむあうん上は不及子細
一この合よあま上あま上詠とる也或は冠のを代多上
右とるは是あわらりのりや但同のあま上とく
用之は得るよとあま上は後教もなとさく山わら
ん基後もさくあま上の月とあま上の合あま上
と無難只つ依りの兼曆よさくひ乃中山多さくあま上
あうくと詠とるも河野あま上のくあま上の又

徳大寺の大臣死す末乃松山とあるは源季邦之松合
乃わさうの派を誠ならず今且そのを難あり唯望季
あるとよみ皆誣るの習也

一てこの月の光といふものを後成難之誠を證す也
一月の光をかくし理伴勢大捕り小松をかく様はそ
かくしつゝをかくし風をよきむらりんとあといふ
ゆかりをかくし合ふ人の意をかくしをかくしつゝあ
誰かかくしんまよふといふをかくし或は病をかくし
是も病をかくしつゝいふといふは或は言ふ事なくは病
可成よる物也かくしつゝ同説を病也かくしつゝ
合はれり方るは病不持病多し病合はれり
かくしつゝいふ事なくは病

一同のせうをかくしつゝ或は病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ

一松樹病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ
能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ能く病をかくしつゝ

物もも又難くもも概集よも皆多入る

かき通したるけり心ももも

る人を清くこの教よも

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

物もも通したるけり心もも

かき通したるけり心もも

勝采是查と日也

一ももかき通したるけり心もも

あんとい合るを小物もも

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

あまに對と教と也も湯洗方合よ通後

也後撰りあるをたはしはくをたとおれをたのた
 けをつるあといりあつらひの事亂しを不為難るり
 一月のり約かろしをろるるを病 乙未年と乳年
 系物法身如方合縁 介乳と介為敷子女御方合中務
 物 乙未志と系新元和方合推成る物、或不為病とも
 是中と病有り准之多山と家多子院方合勅判山家
 史ころところと 後於其後其理病法捕不為病山と
 言振月の日也或不病とも 乙未と病と准之多言湯院
 方合通後をくあつらひ乃白書けれともとといひ
 乃ぬらぬらりるると又月方合於総御不文字と御二とよひわい
 ひくをらひのころといひとて北強難れ物也白と
書形系方合勝撰と人信信書周白方合と河昌と書
 うむよといひひらるとも白書物といふをくとも今方合
 らむといつら後於日撰と人未りの切基緩不難伸実為
 難今案う流るりの是ら北病撰といふ人よわくとも
 乙未今乃ひらひのころといひる書物のはりれ人をとて
 のまそわひひらるといふる病や又西伯は病とてと
 よあつらひる人をあつらひる書物とてとよひわいひらると
 乙未とて是も乙未難屋系北原登死月と月年并
 と月日とるる病とあつらひる書物とてとよひわいひらると
 乃母のいひるひらひの是も月約のいひらると也とて病
 死於ると書物と病と乙未院大書と合と捕親誅とて

八五

七五

と尋ふと又又此方合新恒乃初代と年是は六代為病
也二十歳方合勝年をいふは此の意は病とありて
池乃乃と入母とるの意は病と云は病と云は代は
といひて来よらとせむといひて入病也といひて
又わらや又もあつめまの意はよらといひて
のぬら病は強る天徳勝早形もせめと家の行はれ
るといひて初るありとていふ病也後日較系改は
そつとや針とがた不病道は後形を推病通
後日強る病強合方不勝病と推何とて
一とていふとていふ病とていふ病とていふ病とていふ病
とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病
とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病

又寛和 縁
長徳

いふとていふ病とていふ病とていふ病とていふ病
とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病

又病は強る病強合方不勝病と推何とて

一とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病

一風と云ふとていふ病とていふ病とていふ病

本か〜とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病

今も〜とていふ病とていふ病とていふ病とていふ病

是と云ふとていふ病とていふ病とていふ病とていふ病

一月と云ふとていふ病とていふ病とていふ病とていふ病

之臣等曰... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

一... 難之

方の中そく経法あり及根今雅後より早然言合より二二
一海軍艦不難究わ北山御製を代多

一海軍不普通究わ推成勇方より海軍そく但乞之北之款

わ川やちよりけりふ人の悲しき

はあさう山をきかたりりく

無しとそくふも北之ん鞆籠り魚旅人を
よそわらうそあり

一假停歌天誼究わと後多然の依りの多きそく
をそくそく部を未物とそく後也

一詠詠方究わ后文方合具風林葉を古今但五詠之
一各不遍意の如きそく後亦不各也るれ對面そく

そく 乞北詠也北詠成物後自無そくそく對詠後
不各中を究そく

方合款如庫風陸子方川之

解より去禁言北そく方合わと詠不各詠そく思推表

中そく北の依方禁言思但如然ののの性其や中より上
中より失らわると思界より推禁言白をよりわりの

乃そく詠のハそくそくよ詠也表そくそくむとそくみそく詠
新詠多ふも北言らりや後詠抄白詠川院御そくそく

詠 後詠部よりそくの賢子詠わ者そく詠 月詠後そく
詠川院中そく詠合亮侍実よりそくの乃そくそくそく

そく失如い事今そくそく

やうな海海生花 海や かなもろきわたり はのくにの

あつゝのそこ 海 かなもろ 細葉海まき

る

あつゝのそこ 海 かなもろ かなもろ

わらわね あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

あつゝのそこ あつゝのそこ

清のりよもの中しひくを昔一がきといふくうよ後
うんらんくく死転るくくしはくく會くく以兼唐の
命よまくく州のまかりまきえやぬらん經終禁之北
原登死く依極や城川院中又死辭過年上河新
ちとせまのくをのまきくからく人夷極死物光極のくく
をたよありを北極や極のくくまうわく死は極中
わるとのくくの禁くくは補物長引別指遠方極のくく
くひもわるとか梅の死源産死是康保二年のくかりが
く忌くく低下別刻のくあれくくくくくくくくくく
く忌くくわもく忌死極行くとまらんを極おんわりの
く極似下初まりるあくくわらえかくせらるあとい極武
海之又く禁之 柝のくくくめ けくくく
あつーく わくくく ことくくめ ことくくめ
くく出まぬくもの又時よらりくくくくくくくくくく
おまよま守けおまあくなくくくくくくくくくくく
極のくかりぬくくすと極思おかくとあくくくくくくく
くあよらくあ高くくくくくくくくくくくくくくくく
く屋の梅くえよあくくくくくくくくくくくくくくく
あれくくあはわわ水磨極く極政長くくくくくくくく
はくくくくくあり極くくあ人あくくくくくくくくく
を極あくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくあり ちあ命あくくくくくくくくくくくく

ほくまのりちの如屏風方の歌字多々凡とを
手紙即とよまらひてよむ世に心ざいまんを
世とてあらまらるる世にれとく又世やく歌
をまらひ其くよめるも凡若如いりうあをたの
るらや経法教池上舟といよいよまらるとよみく
用池後新へぬ後時まよ沙芽生と誤て園野松な
といひし道と用山といもわらへよ上東の流居菊久
句といりよら居らるるしをうけりなるとあり如いり
不才勝斗聖まういよとの志のやるといひし道にわら家
とありの松なといよらるるを氣を思ひ居らわらわ
ら小遊といといまんといせといをまらるるんぬ
まの居歌といまわりのまらるる也能くといひしを
し指といわわ和といまらるるをいひまらるる或歌
多くといあらの方を其後歌とてしとてまらるるの
学書

万葉集以下代々勅撰の御在也也

昔者家万葉集家勅撰也二書事也序曰言九年又
裁秋九月廿又目下也延喜十三年八月廿一日也
他人撰也或說源おる説云く如何

樹下集二十卷 多くは眼源撰
之彼ら序

玄く集一卷 後母撰
之序 山伏集 撰名云

良選打書 隆經三書集

經術十卷抄

三良玉集十卷

孔仲兵未依撰
大德元年朝金華集

拾遺古今世卷

發長撰之序
永乾朝詩苑集

續詞苑集世卷

有序是光詩之為勅撰二系院嚴出不差之

新眼法師三卷抄

号今撰集

如此集不可勝計以并撰者不復又古人不用或又

撰者左邊抄多不與念爾入道訂受

厚多子抄集絕佳家

實仲後撰書 三卷不具

止系集世卷

尾注撰者樓盛宏撰

有兩序教之作之

後冷

後三

白河

松川

鳥眼

長代方之

又考山階集撰南朝方稱月以集抄

實後文

重保和為

心正抄述年又多皆不能用也

抄物寫

可家集抄

必是抄世之撰之
世卷抄不刊撰者

類聚歌林

山上境良撰有平中院
多通憲送

新撰心卷

世之 古今後撰但不差之
古今方三百六十卷

金玉集一卷

以任口撰

拾遺抄十卷

拾遺內五百十卷
苑山 或以任

六法 考之 戒慈的親主

深室秘抄一卷 以任口

系流抄 伴在 家山入乃十卷

和漢朗詠抄二卷 以任

新撰朗詠抄二卷 基後

以和又十卷 以任

後又十卷 乃雅 或以任

三十六人撰 以任

續新撰

通後撰

後拾遺內三百六十卷

明得抄

以任

類聚抄十卷

仲兵 有序

悅目抄

基後

抄撰立

同 私記抄多
二十卷

影林百世書 法補方合世書 卷三十卷

法家部類 撰者不知 知是法許之

古代り山和 龍魚

如し物を遊し不し勝汁然る者通し用は之し外施因

影林抄一卷 聖鹿抄抄 道房抄三卷 常集 形服私記

古今體 俗字 山戸免田集 古後抄抄 句集十卷 意集

集北族物大江廣經上科抄二卷 類聚古集世集

教證抄近日又漸々未入之

空家式

欲後標式 糸後勝 法成奉勅

絲作式 之序

又家髓髓

新撰髓髓 之信

後教無名抄

奥後抄字書 法補

能因方枕

綺語抄 仲真

古撰化式 古撰奉勅

不見女式 乞安了法抄 式月物記

以介白女以傳隆源以傳以下海之在龍魚意意蒙抄
法補抄學一字後成古來風和未世法以流流也
又中今 道海十抄 之信九亦未抄物不勝汁也

物類

修勢上下 大和上下 源氏又十字帖

此外物類北強氣要

雜々

家集

家方合 自禁中
弘治家

雜下之方

私記

此中之誰人記式可尋

壘子九帖 法補

現存集 整

拾遺現存集 憲盛

方苑抄 俊惠

現存集已下三箇度全撰業の集以是而不被書
入之系古以不意り也

三又代集 後盛

花月集 所光

拾遺方苑抄

作永元年八月
披瀝之時光

之系 彦玄

海子古良 所茂
亞相

卷之卷 福徳云

廬至 場基法師

六帖 後中書王
六条文

之流大綱之 海心

溪松中納之

校私大將

山陰中納之

之系 彦玄

海人之子

孔雀御子

現破

之流指水

恒吉

世進

忠祿

清中納之 枕為子

和子九品海義 有

徳心方枕 日

那後抄 巻二 終行

越古日記 傳納玄母

堀川院日記 後破
典持

伯母口傳

新世六人 基俊

六之撰 危惠元

花野 後緒元

卯死壁言 近江
彦玄

山本髓腦 後於

吾兄抄 那山本髓腦云
法補之入之修通云

後家集 後詞死集
長門前司乃經

牧笛記 那後家集
法補

今撰集 法補

卷之十又又

後現存 教仲
教教子

之撰合 後惠大丈云

雞方撰 法補云云

之系抄集 之安

那千載 務令
 山得集 經周
 采林抄 縁縁
 寶物集 康乾
 明月集 系安法眼
 古源抄 西平彦成 大月元年
 那那集
 那聚
 那千載 務令
 山得集 惠光房撰 已傳家延
 荊谿春花集 芝麦
 百法門 年法
 世六人十八 芝麦
 那云集 芝麦法眼
 日本紀
 那云抄
 那云抄
 三升集 辰
 仁和集 心云 多仙史
 百歌抄 親盛 大和府司
 大原集 法伝
 玉花集 後史
 平源抄
 那云
 神中 二十卷 形眼

八雲抄卷第一終



慶安四年卯曆二月
 書林
 中野道也練梓

